

## 文化・芸術

### 「少女」

1943年、油彩・板  
14・0cm×8・9cm（笠木壽子氏寄贈）

笠木 實（1920～2017年）

毎年、大川美術館では寄贈、購入をふくめてコレクションの充実につとめています。今年度も、新たに作品が加わりました。これから5回にわたって主な寄贈作品を紹介していきます。

笠木實は、桐生出身の洋画家です。かつて本町通りに「魚萬」という魚問屋があり、その次男として生まれました。中学生のころから絵画に親しみ、1941年に東京美術学校を卒業。当時でも珍しかった銅版画のプレス機を購入して、早くから銅版画を試み、また42年には、桐生倶楽部で個展を開催しました。この小品は、そうした青年期の作品ですが、少女の愛くるしさをシャープな筆遣いで見事にとらえています。

戦後の笠木は、南城一夫、岡鹿之助に師事しながら、彼らと同じ春陽会に出品を続け、また創作とともにスキーや釣りなどの趣味を深め、自適な生活を送りました。

笠木自身も、この作品がお気に入りだったようで、アトリエにいつも飾られていました。（田中）

大川美術館新収蔵作品から

### 名画の扉

